其角七部集

中村俊定文庫
文庫 18
624

合海山堂

其角七部集序

[illegible]

機[illegible]

[illegible]

此[illegible]

[illegible]

中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不可以羅者然矣雖然以藝之不
識得極之亦有能者好演得出自一雑
其於涯陽淺滅與業不能新説書中表
其常情事或之人謂新集但應務其象
象迷而暮稿潤而中之一世有而之集未盡一
讀讀之書風絶全改稿而乃見一乃見其名
其景兼作也且如其一也者書者中每而雄
世和之清之雅玉稿無雑其者而而一稿之
其之生得得游於其之江海取江部書雑也

鄧生畫之説筆意清美一之之雑誌於余求
其要予之為人潔之風筆筆寫之其道故予要
其之之東其於以得野以採録云

天明七丁未十一月

濃陽山人

序

そのかみ貞享元祝のはるかの俳句
七編をあつめて蕉門七部の集と
いひもてはやしぬ世の比のくれ
なつかしきあやしつ彩とこころ
うつるあらしにも既世のふひ
くれとなりてれハとて是非弁
論するふ詮ハ[illegible]彼七部集

あらはせる所の表くさ多かるめ
蕉翁一世の変化のはるほく流り
の先達をおもふしむるよりあるまとは
俳諧つねに人の業単つまみ握翫し
て熟達せるんハ多くこうさんなりのし
交る事稀 其多くるものあるに追ふて
其角ゝ編集をえらひ分てあらふる
七部の俳書を拵へり 其中

弘めむるを欲ほこそあるらんの
商賈に移神を凝し業を
切なるに原故あるんにされを又
俳諧門に入て其乃をまねんと
なるものもの多なるの意に
倣ひつゝえてこれの諸集あれ
こそ新古の長所雅俗の境
をも明らめ蘊奥に乃

[illegible]
[illegible]所の七部の集をみるに栗乃
[illegible]誰この家[illegible]
讀みなす栗すべし正風流
骨髓[illegible]入なつみ[illegible]の考く
[illegible]花實座[illegible]晋子
一家の[illegible]流を盡せ[illegible]
抵元實のあらさ後一變[illegible]の体[illegible]

序ノ二

[illegible]に載さるまくすべて
書をこ[illegible]取捨の大[illegible]
をなそ[illegible]ゆ[illegible]んこの僕
[illegible]晋子の流をくみ多
かの風骨を探るといへもいはさ
そ[illegible]腠理をこ[illegible]
[illegible]と一派の品質乃[illegible]
[illegible]雀躍[illegible]

[illegible]筆紙墨[illegible]

[illegible]

平安夜半亭九董書

天明七丁未冬

嘯古人貧交行之詩吐而

戲序

翻手作雲覆手雨紛々

俳句何須數世不見宗

鑑貧時交此道今人棄

如士

風を世よ拾ふ形見哉

晋其角撰

宝玉文庫

虚栗集

改正

礼者敲門さぶらひ花時也　幻叶

賤ゝ春餅よ萬ゝ宿ちん　三峯

初元ほゝかゝりの床やゝ烏　玉尺

先伸よ大山おろゝや門の松　残詞

春柴負蓽木除ゝ宿を出る　翠紅

餅ヲ焼て富を知日北海士　麋塘

句ひゝゝり今年廿五ノ翁　文排

髭剃るやと辭ふかゝ次穀掘子　杉風

いとやゝ地なゝ小神のゝいとりせる　信徳

蔵書

月い文斜もあれ我道兼の朝日守　友静
釈迦迦〻弥勤進まぬ国ぬ玄　春澄
山松やうゝぬ敷ちゝ名の春　千之
六尺袴兄〻麿人海し玄の つ　千春
春ゝに松い食ゝて年ゝるや　卜尺
ちゝ松ゝ人ゝ月ぬ男ゝ　楊水
春ヲ何と風の こ陶め時ゐの海老　嵐蘭
餅の室根深を蘭乃薫り哉　嵐竹
海老臥龍餅をうつゝ玉あゝん　北鮎
屠蘇ゝで傘すゝん涙時ゐ　楓興
餅的乃ゝゝの国や竈守　李下

餅の角こ陶兄の白蛇眠りけり　洗口
初礼や冨士をかさして扇指　枳風
代ヲ様ス浪池ヲ鴻乃嘴純し　仙化
民の戸や松ヲ餅さく　百代　柳興
初ゝさや生ゝけの海乃空セ椿　嗒山
花ヤセ吉野こ味濃國栖敷　才丸
烟の中ヲ通れ昏ゝゝを
霞ゝん火く出見の世乃紀渚　似春
天和三年　試筆
霞さもあを顔淵生て千ゝ丸客　其角
方乃正月ヲ屈原ゞ酔　嵐雪

もゝ切秋きさらぎ　藤白

其二

浦畠をあやぶるや世乃子戒　同

塩鯛ハ死ヲ祝ひて　其角

芹炊く盍八号乃うつハもれ　嵐雪

其三

ゝ子乃春の奥　孫もあり　青もあり　樽ヲ富　同

杖ゝ子ハ　梅の子し　藤白

三線乃及第　蝶の冠ゝ　其角

とゝぎすハ　ゝ子ハ　ゝ　嵐雪

芋室乃雪百や　下乃葉　言籬

ゑうとれうゝ　首の早苗　孫　杉風

情うるや都ハ雪乃ゝ乃ゝ乃葉　勝延

何故溪邊双ゝ白鷺

无憂頭上亦乗糸

髮あゝ物語芹ゝ沢遠ゝ　其角

小神着せゝ　俳白へ　梅ゞつ戸　同

追鳥や梅枝ゑ息をゝすけゝ　千春

うゝひすれよゞうあゝの蘚賣　翠紅

鵠ハ日ニ不浴白

烏ハ日ニ不黔黑

川鳥白くを浴せすして白し　楓奥
漁澄くきくぬひの網巣白し　全琴
浪ヲ焼くと白魚星乃遠浦浮　棄婿
雪を深て白くを流せ冬葉川　嵐朝
白魚を賊ふく海を晴ル簾哉　翠紅
きくく魚の昔汀乃禮の清くを　心棘
鯨打く釘乃角くむ芦へル　黄吻
芦のあやしく蝸牛成角のかゝ　忘水

在原寺ふく

美男村乃柳いもくを泣せるう　鼓角
うくひすを選ふ孫ひるう嬬柳　芭蕉

俤ふ凡女襤かくくう丙柳　杉風
昭君乃柳をさん屋塘うの　才丸
柳くふくあくみ猫ヲ訪ル夜弐　木因
むくはくあ柳ふ打つる柱ふ邨　四友
川凡ヲ夕日やすふ沢つるめ網　岱白
柳ふいふくで柳のをあしの夕燕　嵐雪
傘ヲ孫くかくやぬを燕　其角
袖つくを舞くり蓮乃小盞　暁雲
声ふヲ打もりけのくう白鷺　羊角
行雁や凡のくを麦の玄盞　在慈
友鄰ふ汐北勢や春くん雲雀笛　野笛

女よかりて

ちゝも哀猫よ仏雑炭そうろうかな　嵐雪

愛あ陶る猫い傾婦の媚ヲ仮　才丸

哀きや猫こうさしとは箱根山　東頭

不生不滅乃心我

滅棠乃鼻ヲ悟き孫ちん像　其角

苣立ヲ折てさるに早し温繁粥　言水

寒食

木食を香炉み烟なくて日なり　誰角

寒食の日旅人ゑに飢つん　友白

寒食や竈下ヨ猫乃目を怪むし　キ角

俤ヶ貴妃のなやめる微ノ月　四友

春雨偶興

春乃餅ゝひて遠滅の秋と誰　其流

鳥賊の目ヶ反て殺る乃後ゝる　工迪

三陽

酸ナ　桃裏の詩人羅白ノ　其角

菊ヲ白の山吹乃粥　李下

榮鼠の蛙小判ヨ身をよ色て　柳奥

其二

けゝて背子土圭れ赤花ゝ　同

さゝ波うゝの蝶乃釣竿　其角

風心扇　つきぬやゝ南かゝん　李下

其三

僧乃謂うとは庐山乃桃の時　同

巖を竜を握るつまこゝ　柳奥

寄る波に之とを敲よ囚れゝ　其角

雛ヲ抱てうゝゝひ桃ゐ咲りけり　其流

霄月乃如れかゞ夜遊雛　友白

桃園乃猫うひさゝひか車　彦豪

ひるよ亥て姑蔥のゝ丸し水　松濤

雛ゑい桃壷の肢よやどりてゝ　拳白

龍田姫をめけん雛乃かゝ綿　子堂

雛九ゝま婦や桃の家不老國　羊角

汐干浮御簾の咲る乃てゝん　卜尺

汐干ゝゝ嘲ゝ振引かゝう哉　嵐雪

漕丈ゆこゝ月ひろゐ汐干ゝ　立志

夕ゝや金をゐけゝ蜆蜜　赤士　以貞

夏方知酒聖

貧始覺錢神

花よゝゝ世我酒白く食黒　芭蕉

眠ヲ尽ス陽炎乃瘦　一晶

露凝て青蓼夏を嫌るゝん　嵐雪

童子磯を踏まわる唐梅　其角
月ヲ濁す汀乃蓼ヲ芦刈て　嵐蘭
浪のさゞ礼よりくるこ紙衣　一晶
琵琶波の雨より勢の付ぬよう　芭蕉
朝よりを風をみるの紙衣　嵐雪
浪人の窓をを詩おもひめす　嵐蒙
やゞ乃一ぬよ入りひそかさ　其角
散さんう同宗旨ヲ誓ひける　一晶
藤ハ退之ヶ肝魂ヲ奪　芭蕉
雷鳥のたつよハ嘴ヲ鳴ちん　嵐雪
洛てるはあ手　鰹　乃ゑ

傾城乃続を拾ふ　神代ヨリ
羽をりよ角ヲうす飛流堆　一晶
化しけ搾ヲ出ゑ草の月　其角
破蕉誤ッテ詩の上ヲ次ク　嵐蘭
釣鮮よ瓦代ヲ贈る遠ナリ　嵐雪
はるゝ志ぬひの松浦片撥　芭蕉
めつゝ乃るあけやゝ乃萱庇　一晶
蚤ハ私乃蓋を乃世　嵐雪
掬入レぬ彩ハ六十乃荊ふく　嵐蘭
市所よ加産ゝ世ヲ東　其角
人の怪異穂長の霄ゝ墨ゝ　芭蕉
一晶

松田くびちの子　雪乃曙　嵐雪

ちらゝや陣中よ似セ鼾ゝく　其角

山野手餓ゝ餅を貪ル　嵐蘭

盗井乃月よ伯夷が足あゝ　芭蕉

ちゝさい武士の憤草　其角

九ゝ記艶書をやゝ挿　嵐蘭

笑ひさんやよ　帰ル竈　一晶

暁乃痛言を母さしてい　嵐雪

つねよ麦ん布ゝまこりゝ　芭蕉

花よ栖庵山の列をたゝん　其角

柳よよりて瀑布ヲ酒呑　嵐蘭

詠懐

花手今頼政ゝ弄を知ル子哉　露沾

永杖よ抹ゝつべし毛乃山　幻吁

子い里よ麦徐毛乃日数ゝ那　似春

雨毛ヲ咲て拭壳の怒ル心あり　麋塒

仰羽い祇し浴堂乃毛よ干鬘　素麦

毛酔る故山よ孫ゝ忘けり　云笑

にくしとて琴を代乃峯の毛　四友

余乃よ男酷暮よ花をみる男　杉風

あゝ笠刀うゝ世つゝふゝ花見猿　嵐蘭

狂よゝへ花人ゝ合羽日照傘　千春

吉野義玉堂にて

斤足い毛の塵いとゝひぬひらう　千之

雨

庐山の夜上壁い花れ畫ちん　楊水

はいえむ上壁東の義人ちん　才九

落花雨美人の化粧流しく　一東

毛い楚地雨のちゝや腐足帷　洗口

七賢の自畫よ

花と世を弁よろげゝ翁う邨　樵花

躯不花死不休矣

於屁毛と流るゝかだゝう　嵐蘭

簑着ゝる樵りふいの花の虹　房有

惜花不拂地

我僕茂毛よ窮ゆゝう　其角

代樵

影笛縫簑花よ晴せんうに世哉　其角

小町乃像讃

おことゝそ風狂祇乃姥さゝ　宗因

義をふくむんのさゝ流式　文排

然中女よ毛ゝのう沢ちゝ敬　茂句

いゝゝ云へく同人よ沢テの搖賤　彦豪

白ゝんゝゝ去人と山さゝ　松風

殿へ招ワ薪餅うる揚茶屋　嵐雪

昼乃君うけ〳〵と咲り受　揚　杉風

燈のときあそびにくるや山さくら　利久

遊人去て昼乃さくら戎畠狐　子堂

目黒杉蘭堂にて

うゐ世未をかすに咲ぬ山揚　其角

梨花ちらに拂のこゝ小蝶すぐるらん　嵐蘭

海棠やうき世義人の方移り　蕉花

ちんろう口杉れむ乃紅物や　九十

あんぼうや春とらぬ扉志ま菊　山店

さん屋吟行

詩を加賀ゝ十ゝ蛙ゝ杉　枫奥

角田川春い田ゝ行ゝ雲ゝ　支排

麦食ふ聲ゝ蕎ゝ田ゝ猪　千鶴

田ゝ水ゝ引ゝ生ゝ懸ゝ屋ゝ　拾蛍

唐房の高氣下仕ゝ　雪叢

ゝ秋ゝ月ゝ夜ゝ　四友

ゝ寺ゝ月ゝ　柳奥

ゝ水ゝ司ゝ　翠紅

蓮花の盛や水司ゝ　入あひの鐘　彩青

蝶ちりく葉の花や　小雨ゝ薬を志ゝ　のゝ扇傘

あさつさを結を懐ゝ　妹ゝ里　少寺　紫菊

仙家ふいるまくび拵んとて川原　鳳尾

山吹や无言禅師乃すて衣　藤白子
腰紙薪乃　飢若早　蕨　真角
多路ゝ廟夕へや秋とかすむん　同
其きちゝれ十六日乃文　白子
古鮎の鱠のさかりを惜む丈　同
拵伐ちゝ　ひゝく　杣川　角
金減て彩世の分ちうゝ　同
褞袍さむく伯母見よゝ　白子
ゑびゝるさいゝ　かゝれ　同

心鼠い昼乃灯をのむ　角
あさ南ゝさ文字れ賊衣魚家　同
小神紙ちゝす涼店の凡　白子
夕鄭ゝ宮女のお撲めゝ　同
大盞七ツ星をちゝひゝ　角
日分月分西瓜よ剣ヲ曲ケル　同
弓張鮒豆拵よ半ヲ射ル　白子
里かゝれおれ紙ゑのかしこて　同
なゝゝは離れ香の吉原　角
米の礼芳稽みよいゝをけり　同
初木かゝ紙髣ル志ぶ寺　白子

暁乃厠仏の石水掬ひて　同
巖も餅へかひりりの春　角
猟師をいさむる女あとかく　同
ちらぐ〳〵や首ぬ〳〵の池　句子
ちまき具足芦刈ゆつる剥きりん　同
婆鞠よりわ〳〵る島おろ〳〵丹　角
鳥葬よりつあるぬ月そろさ　同
霖さめ待りをさ〳〵皮上鶺　句子
残る月戸よさめ〳〵の奇ヲ歩　同
蘭の釵挑ひ髪ゆつてやる　角
幽乃虚勞さ〳〵ちりよけを　同

雨母親乃面ちゑ慰む　句子
烟〳〵せ〳〵男の立て茶水〳〵し　同
入あひさてを借ス度変うな　角
蝶居士う花の衾千夢ちりく　同
佛よけぐさ　菫立乃家　句子

改夏

かくまでも正身い梅の咲り　芭蕉
待まひて古今裏に新みる新式　四友
山鳥と啼々る新受ヲ切ル斧　素堂
かくまで等閑拂の祭る隠しや　嵐蘭
思ひ音や連歌ぬす人ゑ新　翠紅
ほくまでも表庭や淀乃賓亦　千之
半日乃下戸雨花よくまでも新　千春
錦帳の影世界草丸戸や郭云　嵐雪
誰ゝ謂し南天の実丸附郭云　信徳
拘把遊歩日干らん　かくまで沢　茂白

月い代月ほくまでも志レ竿　杉風
ゑ新芋まぶ新　月夜ゝ郭　李下
郭云たるゝ蜀丸新茶哉　才丸
錦ゑ丸涙ゑ洗ゑ風郭云　才滴
かくまで沢乱くゑ里ゑ見ひらん　一蜂
あゝ丸新瓶やすめかくまで　濁子
冥途ゑい移や待くんほくまで沢　中村如菴
夏桃や伏見くまけいかくまで　東須
かくまで羅紗乃毛衣くーくん　松緑
雨ヲ少夜月化くんかくまで　勝延
花めしくゝ柳いかし新かくまで沢　四友

子規おらくれなりぬうどの杜　調艶
鼻毛刈人よ　きけとやる　子規　其流
清く啼ン耳よ　香焼く　郭公　芭蕉
鶯濡ヲ　呪みも　奇く　ゆかるる　其角
我ヲ人ゆ　我ヲ啼　ゆかるる　子規　同
姿旦夕て　卯花よ　文ヲ　ふむ　女　言水
昼ゆる　卯花　恋さるぬる　ねる　才九
蟾ヲふんで　夜の卯の花ヲ　憎ゆる　其角

四月十八日即興

偽レル卯花よ　樗ゆ　昼　きけり　千之
鰹をのふむ　樓北上　乃月　其角

古の法の裸ゆ　むく　秋乃風　同
さゝ立ぬ　涼　ゆる　之
藏ゆ　鹿　菊ゆ　南　乃　晴　同
染越いあゝ　ぬ　蘇　鉄　一かゞ　角
俺ゝて　ゆふ　詩を　着る　時　之
吳乃　袁　酒を　かゝく　角
多　糯　西施ゆ　影を　こぼゆん　之
蘭　乃　紫　乃　汗　角
簾　の小杉音　ゆく　雪ゆく　之
さゝ　ゆる　庭　き　蛙　這　角
俳人を志頃乃古城　ゆ　ひし　之

石山の秋月と井の晩鐘　角之

尺八を掉さゝぬ者あらば九太夫　角之

遊子おとゝの國ヲ尋ヌル

花日〻に老い娘乃まを引　角之

松ある隣り羽ひよ乃　角

百千ゑ繰ゞ仕ゑ待窓やゝ　同

面おゝゝゝて蕭ヲ仮ル　之

年咲〻〻青原山の松ゑ似ゝ　角

毛一吹崑山よ名を晒スラン　之

木かしよ浪士乃市ゑ行　角

回火消乃家さやく松　之

経よゝる沸魂屋乃こゝゝす　角

夕へい秋の怪る羽さゝ乃　之

粗の袋ゑ涙ゝ成あゝる　庚衣　角

ゝゝゝ乃窟よ迷ゝ身　之

盗人ゝ成とゞゝる鎗の音ゝけ　角

胴乃百寒ゝ波出衣罷　之

年と日ゝ賊の一戸薪よゝ尽ス　同

うゝ紀を荷ふ越の山業　角

剣術ゝ成虚谷ゑ　之

有朋自遠方来　同

むよ粮空嚢よ銭をゝゝらん　角

蛤殿くれやまのき ヲ焼　同

麥刈時よりあらひて

若麥やむくれぬめるこれろん　自悦

高くれよ麥の穂風の初うたち　卜尺

青さしや草餅の穂る出たくん　芭蕉

麥莚ひさてい川り賤の戸　故白

ゆふけく青麥白し氷雨祭　嵐朝

麥よかち薄よ月ヲ見んまその秋　其角

贈一鉄

亦や鰹今あくだ家を勢　素堂

消し壺れ河鯽を吊ひろり鰹　雷虫

こしらえや蓼をむくれ乃塩鰹　嵐竹

蓼鰹乃卵の中れめぢり哉　其角

ふるり曙よりそのうち池

菖ナル尤我ろの去れ鰆やん　一晶

魚ヲ折ル乃中ぬや杜ろあや先　拳白

誰世より治郎ぬ牙投しかくろ　麦沾

重伍　廿五匁

菖把よ競曲中伐桑形くん　拳白

粽ヲ去ぐくる鬼乃陰　其角

龍ヲよぐ白乃去との沼荒まく　松濤

市歩くかろき雪の山橋　白角
錦干す木々の間の春寒すて　嚏角
菖乃蘭　猿蓑ヲ吸　湖
家をへて舟漕旧都を弥さけり　白
漁笛ハあれと瑟まゝぬ蜑　角
志を松姫のうつさ云出ぬ　湖
別ぬふゝさ伐て旅窠　白
情ある不破の関屋乃小奇り　角
ゆゝ伐江戸よかへす道心　湖
茨柄乃紅木をとゝも重ゝぬ　白
破蕉老ふる化ゝ寺　角

蝌ひゝ月伐窮つの淋ふる　湖
詩人の餌乃鄭魚ヲ憎シト　白
花ヲ啼美女盃を江ヲ投て　角
ちひくゝ香ゝ柳ゝ　湖
蝶と遊ぶ松ゝ宮ゝ　白
骨髄ヲ飛ゝ川ヲ流つ　角
三線ヲ十市ゝ里ゝ少ぬス夜や　湖
あゝゝ裂ゝ麦ゝ笠　白
祖母ハせく蕉ハ流石義ゝあり　角
陸利ヲ殺ス光雪の咎　湖
春を盗ム梅ハ破戒の其一ツ　図両

鈴虫をの風ふけて寒の夜哉　蕉白

菖川鶴乃うつさ巣や坐両　蕉花

ぬぐめく鶏乃鶏乃床ふ鑓　云笑

ちらくちらく冨士の淡ふり江戸幟　長吁

ちりめんを義ぬけしさう菖蒲妻　才紫

世ぬあやめ乃さや菰水石髑髏　嵐雪

粽かりん驛ふとめくく鈴の風呂　其角

行田乃うぬぬやうしし

川崎乃日の影ひるとうて

うさ桶や行くて波乃晒日　自悅

時鳥の二声ゑ声

掛ふとけれて

五月雨ぬ端居古紀平家ふ物語　嵐雪

五月雨ふ小田ふ鯉ふむ童　蕉白

瀟湘乃夜や英雄ふ五月雨　柳臭

履盆ふ折し田奇の物ふ義　秀豪

いちこ折姫川山の奇ふ訓　言号

亡母を思ふる

亡月書ふ我義虫や母ふひ　嵐雪

蚤蹤音ふの里ふくれり　房章

蚊の帳を出ふ泊ふむ四ツふ哉　洗口

蚊のこゑ〜弁校のつくり霞の七　子堂
蚊すはしる蚊の園亦れかし　翠苔
昏やまきりの草葉丸舎り蚊生る　放白
蚊を面〜や蠹蚊ゞ園乃私徑　甚角
蚊のかるきいく〜小雨の夕へ比　吏若
裏れ夜いさりちさき秋乃旅蚊比　杉風
菖ゞ〜〜不破の関乃丸紙帳武　鼓角

和二古詩一ヲ

瑟ヲ焼くゝ多熟を煮る夜酒淋〜　喜角
谷木の畏ちなくゝれるつくゝ留　同
うゝもみな鼠やゝいすやゝ山　房宿

くゝれ人き蛍狂火じやゝ云れゝ　春浪
草の戸よ我い夢くゝ多ゝ　其角
うすもゝ羽織絅うゝ　嘆雲
岩巻栢を宿あゝ顔の蛍ゝ郷　言籬
あゝちゝ地蛇の闇狂向ゝ　皷角
女恥ゝ蛍狂ゆる毛むゝ　放白
青風火や蛍ゝくゝ　李下
ゝの苦し夕蝙蝠ゝ涼ゝ風　子英
うゝゝ丸涼ゝや髪千女扶ゝ　才丸

酔登二階一

酒の瀑布冷麥の九天ヨリ落ルナラン　其角

雪乃鼎　尤勝　水芋乃鯉　芭蕉

冨の山嶽乃あうつさをさめく

禅定や珠数ヲ薪の書机床　文排

山茱萸乃かくしやゝ重さうに風　嵐雪

田家納涼

茅の家ゝ金紙色むしゝあり那　其角

塚ゝのうつを渭ゝ世渭ゝ山ゝあり　长吁

蛛の巣ゝ世渭ゝ山ゝあり　才丸

柳ゝゝや風ゝぐらゝ、月しあり　素堂

むゝゝ面の木陰なりせいとゝろてん　拾蛍

堪ゝや花形ゝ蝶の世ゝゝく酒　芭蕉

ゝゝゝゝゝ蝶乃娘りゝ　一晶

弁帰いゝゝゝ抱ようけまた

ゝゝ人や祈ゝさちん

涼ゝくて刻ゝゝゝんこい

汗ゝ行ゝ風ゝぐゝ八へゝ竹襦半　嵐雪

夕風ゝむすめとゝうじん添窠簾　杉風

東海や足踏ゝ海ゝ夕立の面　松濤

水枯ゝ蟬を不断の瀧乃声　幻吁

木さゝゝや蝉ゝあけの舊衣　残詞

夜乃蝉蕭ゝさく日向の水　黙足

一晶乃宿坊ゝゝ

日蓮ゝ指ゝ蟬の鳴時ゝ　其角

我が

乞食の形天地を着る夏衣　同

扇うて賤ヶ岳せや夏　友礁　羽白

唐扇はすもの和扇の艶へ渋団　鼓魚

扇団うちわ紙洗師　俗の風　嵐鈴

破屋あれくるる傘を月ひす

夕涼の雨ぬれぬ荒屋ヶ邨　東頌

花立て夕良はいつ世ヶ有れ　一晶

夕良はすゝけぬ富士乃枝形氏　茂白

優婆塞ヶ不動白ーや夕良の色　長吁

荷興　十唱

涼葉巻葉　此蓮　風情色さくん　素堂

香うゝが風蓮香を磨り

そのかさ蓮乃魚乃児躍

荷ゝ水ゝ母よそ鴨の抗敢屋

青蜻蛉のそちすれ故懸ヶ

お乃き法ゝ已ヶ畫ゝそちらん

玄美蓉美女湯あるて立ヶ

荷ヨうつて散ちる雲うすや村雨

蓮世界翠は不二を沉むゝく

或ハ唐茶二醉世て赤く蓮乃梶

一もしの落まれ人をまひいの多
武さしの野の我屋之けの涼しき笛　翠紅
切麦さしの沢さしの里　才丸
草鞋ヲいそぎ徑アリて　一晶
降るめ沢つゝむ雨の濁レ子　其角
月出る日九牛遥夕歩き　圖両
元禄を偖る市所やしの松　紅
鏡刻附乃斧元　ヤける　丸
八十万隼の霊とあるる　晶
生姜葉ぜかさまる市安笠　角
関雪深ス三五夜乃曲　丸

雁の来ルつて揚弓を競ふん　紅
冶郎ちぶすま　盞乃論　圖両
金谷ノ泪ヲかこちしく　晶
荒しや姑蘇の風呂臺ス入　角
亂往昔古首つるべよりよる　丸
主人の瑞を告し初鶏　和
花の枝へ連欲賞ヲやる　角
楊まぐさ西洛原によし　晶
地女の技ぐ沢深き帯　和
小六ス形る郎よりれと　丸
時を洗や西園楊九生れ世　晶

無樹渡江ヲ　松　九本あり　角

蕪焦て雷ヨ霹らん　九

もるよ書ヲ彫　困窓の夜　図両

犬ヨるに加るい酔の翁ヨて　角

婚等ヨり恥を多武及す　和

早稲い実ヲ入晩稲ハ躰稲つりヲ　晶

神ヨらさむしスバル　満ン時　九

多飲ヨ起ヨ竈下に身武ヨ　和

少しヨる声の踊ヨ紀ヨ川　晶

五捅のけヨ春ヨ　ヨ先ず高　角

彫刻をてうけり暮れい川を　和

花ヨ世ヨ伊逸を山の湾美法　九

心ヨすンの　剣おヨ　庵　角

灯前乃夜話酒を　奴ニス　晶

あヨに沖る四乃図両

年の輪比半をとぐる名越ヨ和　翠和

改秋

初秋の風かすかに白し　靜西風　東頭

初風よ風吉ゝ菴もあきにけり　濁子

梶乃葉や小ぶ[illegible]　天川　嵐雪

我や来ぬひぐらしの夜ゝ　其角

芋ゝかの衣乃おもて乃ゝ蕾　同

新ゝ敷ゝ敷い敷い草はしのみて

治郎ゝ[illegible]ける　夕彦　雪

蟬月ゝ[illegible]ぬ乃遠恨ゝ　同

河ゝ[illegible]涙捨ゝ木つむ寿　角

霖を獨りを含ゝ巣[illegible]　雪

ちゝみ一把ゝ乃捨草　角

人待や人ゝ[illegible]ゝ赤椿　雪

蝶女ゝ[illegible]ゝ地月さゝ[illegible]　角

ゝゝゝ囲啄[illegible]　雪

敵ゝ[illegible]て[illegible]のゝ乃[illegible]　角

ゝゝ思ゝ陰乃怒ゝ[illegible]ゝ　雪

色ゝ[illegible]ゝ京ゝ初萩の奏　角

[illegible]ゝ乃文くゞり　雪

家ゝの月[illegible]ゝ琴借ル　角

新ゝ[illegible]ゝ花ゝ[illegible]ゝ小神武者　雪

美山ゝの笑ひ茶[illegible]の風流　角

鸚鵡能　呼り試ちかひる辻蔵　同

叶りぬ言をいはる清水　雪

山城の吉野もすびは松もこそ　角

菱川さう乃　吾妻　伏　雪

狂哥堂吉紀枕を　れ　角

ちぐさへい酒　酒　調ひ乃仙　雪

簑を焼ちみられくむ君義　角

ゑ　孤舟　女房さしめ　雪

萱金かくしうへいりん　鶯　平　角

松虫まちぐ住あれの宮　雪

秀い神衣桁ゑ蕎乃かるる　角

墓姫月よ　ちうん　雪

若元と私あの北おとゝ　同

ほと明ゑ枕蚊屋越ヲ切ル　角

ゑの脚布　雪

五十乃内信恥　同

花は宴ゑ佛密ま乃　角

やふ入ル　雨を　同

效白氏之隣女題

二星私憾　乃姫年十五　其角

ゑ　諸調　嵐朝

秀ちぐる墨乃森や角豆　拔句

白家恥ぬ嫁星よ霧衣かくん身　皷角

世〳〵は阿房こうひの空や汚し川　揚水

妹窠こいうも窓文〳〵根漢白し　松濤

夕かも星あひそめぬ色帝妻　雨情

誰手向〳〵蜻やとり拵つるへ　拾栄

亂尾艸や稲妻はやく世の手向　茂白

れくわ火や定家の烟十文字　其角

玉祭る里や搔刈男香炉〳〵女　松濤

貧せこゝ初雪寒し　菖羽織　春来

臨素堂秋池

風秋の荷葉二扇をくるえ　其角

和角蓼蛍句

あさゝかよ蚊ゝ食ふたゝき哉　芭蕉

あさゝかは蚊ゝをやく刺光　茂白

鈴鳥乃暁毛ゝる犬の声憶し　樵花

あゝゝおよ傘干ていつゝかぐそ　暁雲

蓑虫ゝけゝん友とうつゝぬ　黄吻

萩の青い憂化咲しのゝゝゝ　暮角

鈴ゝくゝよ咲ゝゝ

さかり久ゝゝゝ

御詠を感して

ほゝさゝかゝ仙洞様を命ゝ那　其角

破芽

風妖〻舊年萩の芽すゝ　李下

猫捨やうゝみをくゝす青蔦原　東吹

芭蕉の女稱〻〻つる訂歩　小山　玄甫

家蔭や雪中よ立る接美人　其流

萩刈て死こ枕うす男　其角

方を庭前の朴化ちて

渠何代人見ずうゝみ朴て　嵐蘭

三夕

西行

秋ゝ此法師すゝの夕哉　宗因

定家

舟多ゝ屋乃秋ゝ夕哉　嵐雪

寂蓮

和歌の胷抱ゝ山の夕哉　其角

さゝ〻は秋向ゝ東ル紙姿　自悅

人ゝ寢て心ゝ夜ルを秋の昏　麋塒

田婦子を負て蚕ゝ〻ゝ心哉　卜尺

我立り蚕花ゝ中ゝ　犬ゝ〻　杉風

いかゝとゝ〻いつ神の時ゝ　子英

猫よくゝ〻を蚕の書ゝすゝ　其角

三ケ月や鮫魚のタへつかむらん　芭蕉

論居

象潟の月や流人のさすけ哉　琢菴

月は飢て旅人古江乃百ヲ腰　鼓角

月ゆゑや家婦う情のちろ式　杉風

昼のつめたく春ん三論の森　東順

月を泊越路の小若木哉下女　其角

あつひを日比の月は麻衣哉　四友

牛吼て山路う新て寒　柳與

月ヲ抱征人首を洒錢ちん　山店

弓カラ西へよろ秋乃月　明治

何配所ゆゑも罪ちゆゑ国の月　源玄奇

冥土の月我ゆゑ乃やゆゑ老目読　疎言

故寺月影ゆゑ狼客式抱ちゆゑ　北鯤

月は軽く天帝の塩ゆゑ　才九

舟中吟

ゆゑ乃女船や木枯ゆゑ式掉ゆゑん　杉風

芋くゆゑ尻ゆゑ式ゆゑ雪哉　三峯

ちゆゑ月の月い四角ゆゑ式ゆゑ　友吉

芋ゆゑ裏鞭月ゆゑ式ゆゑ　云笑

や化茶屋白ゆゑ里乃桂う那　翠和

四ゆゑ永ゆゑ賞ゆゑん月乃川　友白

芋ゝ抱て洒ゝ多おろんけゝの圖　桐橋
誰カ家の思姻を月ゝ訊ゝ杉川ハ　雪叢

土船ニ調掉ヲ月いすめ方ハ濁レとも　楓興
浮生ハそゼを放す盞　其角
興をげて西風手着スル烏角巾　柳奥
萩すり固風みゝゝ華　長吁
蓬生のうちゝい蚊屋の中ゝ始　角
鼬乃多く門おそめ有り　楓
ぬす人を矢手待風窓を射る　吁
下ゝ女ゝ読手ゝゝゝ　俳柳

湘ゝも真衣乃法まを切ル裸　楓
もゝゝ西夜の文拂とく　角
月ゝゝ緣ゝゝ髪長シク　柳
うゝを盛乃酒中花の肖　吁
爰ゝ彫ル櫻ゝ枝を痛ゝん　角
かゝゝ乃風ゝ蔦墻の月　楓
笠軽く鞠手ゝ分をゝゝ　吁
冥ゝ所伝渡ゝ中山　柳
紫苑ゝ妙の僕ゝ　楓
老母ゝ牛手ゝ　角
うゝ雲ゝ奪ゝゝ同風　柳

乞食の鉢をつゝむ堂社　吁
あゝ所傾国ハ垣の卯こまそ　角
こゝ路を物ゝ陸ぬ中ゝ　枫
ちまゝの蛍ハ舞ゝそぐらん　吁
羇行のちみゝ下官哥ゝ心　柳
乃み杜み美湯治山中一夜雨　枫
看ちき炉ゝ三線ヲ煮ル　角
抔坊ゝ化地ゝ　柳
まをゝめす　吁
稿ゝめゝ業ゝ薄ゝ　角
夕へを契る蝸牛の木偶　枫

進めする錦木供粮立ちゝ　吁
地蔵ハ粉ゝ　柳
三七日ハ亂懐の相を啼鳥　角
食腥く出る蛇ハ　枫
奮惡の蚊ハ花ハ色苦し　柳
毛虫ハ帽の孫ゝ爭ふ　吁
稲磨歌妹ハ雑時乃羽　秋風
多多幾晨奴良手加毛
杉風乃里ゝ粒する丸ハ　風雪
芭蕉庵ノ夜

墨染を 西鼓よ 陳る 花の郷 其角
亦此里賤ゝ夜 寒 丸 火 舟 う 紙 其流
物数寄 丸 世 捨 さ ぬ さ や 薄 菴 黄吻
石 菖 を つ ゆ の 落 手 う う 法 ゝ 鉢 永原 愚心
う つ ゝ ん て 艸 刈 鎌 を 逸 ゝ ん 海白
鄰 化 ゝ ゝ ゝ 花 フ 略 の 夕 へ ル 瓠落
傳 よ 曰 稲 負 鳥 い 〻 べ た ち 四友
義 う ら 〻 〻 ま す ち 丸 於 芋 刈 男 丸 子堂
於 芋 子 而 ゝ 夕 新 の 夕 へ さ ん あ ゝ あ れ 嵐蘭
ゝ ゝ れ く 山 賊 ゝ ゝ し 案 山 子 新 子英

重陽三句 句菊

風菊 蓋笠 冠 止 朝
有蘭草菊宜 止 芭蕉
俳門 有芳菊 止 嵐雪

賀 城 つ ゝ 丸 ゝ や 引 ゝ ん 小 菊 系 拳白
雜 ゝ の 硯 菊 を あ る ゝ や 芳 ゝ き 翠紅
菊 ハ 山 ゝ ゝ ん の 寿 ゝ 賀 ゝ ん 暮角
似 蘭 丸 ゝ ゝ り 拾 ゝ ゝ 床 の 菊 枳風
千家の騒人百菊の余情
菊 う ゝ や 菊 よ 詩 人 の 賀 ゝ 賣 ル 其角
松 乃 香 ハ 丸 ゝ ゝ ゝ ゝ さ ん ゝ 草 円

産婆を　松茸　尺有余落る秋

小上戸熟柿の林かくれさや　信徳

うや汐木流す柚味噌の夕烟　一蜂

落椎の雨うやうやしく答へを木葉菴　拾蛍

栗拾ハ麓寂び　秋乃わ来れ　蒼席

焼栗や　殿　月　乃　面　仙風

指出れ牙を栗ふ啼こうひるか　幻吁

栗のかゝ藻の市ハゼかゝ法べ　其角

なぜつるやゝみ和山の酒　旗　凡　卜尺

傘合羽なぜつゝ附面影なるや　嵐雪

汐人帰るあしし流なぜの命哉　皷角

春蒙

なぜ此流いうに杉ちん佛の日　蒼席

こかしきや澪木の枝折なせ小丹　蒼席

さび新やいつを栄乃蓼の毛　長柄　寛満

衣助市ゝり新れ蓼のさび　杉風

カジカ此夕へ愁人ハ狐の毛を釣　其角

遊心寺ノ高雄カ廟

衣ゝる雲よ石ノ粉ハ蓼の裾　才丸

板みゝゝ蓼を鱗乃龍　紅井　羊角

雉のもん錠白ゝ瀑布のも　四友

憶老杜

髭風ヲ吹て暮秋歎スルハ誰ガ子ゾ　芭蕉

九月盡

秋の夜は月の出るまで秋の師走哉　其角

上冬

僧うかれけり松に月の出る時雨　杉風

世の中は何ぞ宗祇の宵時雨哉　芭蕉

きぬ〻に月さすけ蕎麦軒の伸新し　菊白

蕎麦うつ音の聞ゆ村時雨　其角

君火燵うち身は月の小神の郷　枳風

紫乃暮山は紅の一しぐれ　子堂

葉柏や風ふき初る数寄屋　素堂

越泊船堂塗中感

波道黙〻夕日や埋む小雨　揚水

夕かすみん虹の俤（カリ）つくる山　同

端山木の風かんかへつり茸　其流

冬瓜乃を刈ふる素北郷　素堂

冬瓜の道は去るべや牛乃屎　卜尺

十月蟋

きりぎす蒐は巣をして鳴ぬる　嵐雪

盃捨て寒徑寄ぬいざくらな　子堂

氷〻ん日陰の松蝶日ざし魚　菊白

蕎麦乃ゑ〻ら蹄セ一寄る冬（サシリ）　李白

落葉ばかりぐくや納豆汁ッ寒夜　才丸
寒白し枯野ぐるぐれば月荻　翠孔
号を吹く肝理むし夜の木枯哉　烏巾
枯板扣のう寒ちてかすかなる　青扇
茶ぬ志や上戸の才　梅乃兄　蔵白
垂窓の文り短簪の下ゆ釜鳴ル　杉風
貪山の釜寒ゆ帝声寒　　芭蕉
松風や炉ゆ富士ばやく西屋形　其角
志岸刻ル火箸を芽の幽ゆ入　同
犬川てうゆ指ゆ里夜奥　同
宗千寒ゆ野ん山里ぬさび刻ル　柳奥

世千ゆ寒く沙人うと搗ル　秀露
冷枯く七世ぬ搗ゆ遠ゆ　秀峯
老尼ゆ歳の備やし夜ルの搗　秀宿

雪夜

佛ゆ寒ばいさゆ寒ん寒ゆ湯哉　幻吁
夜着ゆ重ゆ号天ゆ雪寒ゆ寒ん　芭蕉
寒ばゆ心地狸ゆ酔ゆ雪ぬ寒ゆ　麋塘
僕ゆ雪夜犬を枕のゆ葉ゆ　杉風
てんかゆ寄ゆ狂句ぬ法師寒ぬ児　李下
雪を吐く蒲投ゆ化粧姫　敲角

富峰

弱つゝみ千藁もくめんの雪花雪　千之
不二ゑ目鼻混沌の王死ニ戸ゝり　鼓角
大回り磯石わさめんの花雪　空鬼
富士ゑ山寺麦田い雪花早苗ゑな　其角
ゝい富士木綿ゝ原のけゝさ哉　鳳尾
世ゝさゝゝる香黄雪ゑゝく紛わ　九十
蒜ゝ紛ゝ雪花ゑ麻ゑ色ゑ　拳白
幽戸推て雪を毫壇の艶ゝな　言色
蒜わゝ雪花女の角にせ　紅友
ゝ雪ゑ丸住濁るあゝと哉　蘭山
ゝゝけや雪濡ゑゝく雪の下女　利久

雪を織てびゝゝど白ゝ大山雅　峡水
皂莢の実い雪さゝゝ雪花窓　扇看
雪花奥岸負ゝゝがすゝゝさゝ紛　才濡
舎者定雛笹ゑ紛ゝ紛や紛の雪　ゆき

旅行

城尺ゝゝ合羽い雪花昏　信徒
紛原い花脚ちゝゝ雪の昏　一晶
雪の薪牛追紛ゑ雪つゝ舞　文排
雪花犬筈ゑおくや　姨捨山　四友

憶李白

月ヲ尺て東坡い雪ゑ才投久　才九

河艶よ貴妃の佛を慈子堂
遊の代乃小哥を琴よ囮思君て其角
早苗車を喜雨墓手引丸
カルのゑよ感あり持の花盛堂
鰯すくひが渭す日の後角
秋風式名殺が待気山すみ丸
購人出家ヲ夕へく堂
稻妻れめを及よ弓の才をとする角
魔境の月を覗くして丸
山青と碁をうひ凡の古寺よ堂
茶僧の首鳥豆ヲ啼角

顔渕が麦食愛のひとつまて 丸
蓼を藜も家のうれ 庭堂
住べすむ孤エ なりはあれ 角
吉原丸 秋よりり乃里 丸
花千深ム恵磨賢ハたつとと 堂
董をさく和哥の擂聟 角
永さ日も狸布の上下胸あいす 丸
なれ豆よ埋む 儒乃陰 堂
今哉角天地を揺のみ破る 角
鼾よ笈て睡洞千入 丸
業鬼や狐雛レて 堂
えくける

名城松よ荒を飾す　月角
金堂むりゝ北夕へさやゝにも　丸丸
伶世すゞれく玉虫を舞　堂
くさ刈ゝ山よかれ法ん　角
文幣うけを平山　丸
絶るゝ隆の肩ぬく陽西　堂
さつ男の奴くみをや弱荒　角
誠ゝ時ゝもちくおぶんめきそ　丸
吹雪武尺する岩屋でる　堂
花さうゞ告よ尾上北でおろし　角
やすゝ皷原の葉さゝ　丸

ゝ膳心祈すゞしめり気遠ゝ　堂
俳諧童友ゝゝ　里
魃是破戒教生　角
飲酒ゝゝ

妄語

魃を煮てゝゝ賣世彩さ式　一晶

倫盗

賊心や河魃よ迷ひの代ゝ　李下

邪淫

妻ゝゝぬゝな憎そ小衣　其角
ゝ干や指ん蔥乃うみ白　子英

腸ぬけりや三とせまちわび徇の魚　壁笛
拾はれてあぐを湯婆の炉に　全琴
人何ヲカ土肉の毒ある　揚水
獅子ぶち栗よろこべる　拳白
鮫侍て淺漬氷る丸屋敷　雷虫

夜學感

鶯氷ル夜や蛭蛾灯盞ヨ閉ル　其角
酒氷ル寒菊ヲ我　一令
茅舍莫水ヲ　蕉花
氷苦く偃蒲が咽をうるほす　芭蕉
蒹ヨあわしまろび水柱哉　虎吟

閑ニ春ヲぬすむ人ヲ雪ノ梅　其流
軒の柊梅を探るに抱ひ一ツ　嵐雪
る屋ヨリ水仙の香ハ已秋ノ　友白
雪ヨ和ラ〳〵あ仙ハ勇駒ヲ　四友

師走の月を

あるかなき白髪遊女乃閨の月　鬼貫
寒苦鳥孤婦ハ祝ふと哭哉　李下
寐ぬ夜ヲ明ヲ鳴鳥ハ寒苦僧　才丸
貪苦鳥明日餐つくるべくもなし　其角
入あれ〳〵ものもとめ刈る余ル　瓢箪
麝ヲ交て俄神樂や里乃森　云笑

神木舟遷の灯乃所史白くくけ　嵐雪
りをや史姥子ゝ舞の白きとやく　柳奥
三十日り芋眼くゝり雪乃初　角止

一年三百六十日
開口笑無三日

飽やくくゝ紙し臼乃轟と　李下
世ゝ白波子大根こぐゝ　其角
月雪成芋のあゝ戸や枯つゝん　同
かゝろゝい書ヲよみ出ス声　下
百ヲある狐し秋をあゝさめし　同
傾婦を菌乃雛よゝる　角

敵ある国氏やゝ紙いくゝ子草　下
ゝ乃い天下一番の良　角
文盲か金拾ハ金を以テ冷ル　下
ゝとゝり豚くゝら養ゝ　角
真池成ゝゝ子ゝゝつゝびを表　下
士峯の寸成子ゝ加賀反　角
初めて国ゝ千曳北徒刹　下
ゝゝゝ川かゝ黒木串材　角
雛あゝの面みる男内ゆゝし　下
春宵ゝゝくくゝあひのゝ　角
月ゝ嗜く豆腐のくゝ上戸や　下

蕎も白くなびく川の縁　角
新しい家に寺社移るへうん　円
院のほとりのあるかぎり宿　卜
故郷をとふ京小町をとひ出る　角
仕舞をぶす八重のちぐさ　卜
墨深き女房みちをかむる　角
新しき木の地ぶ多　卜
笠よう新鶯河をうの情　角
三線人の思ひ流れむ　円
月い袖かくらる瞰る瞰のうへ　円
時の移しぐる夜深き月　蕉

恥さらす坊僧を笑ふ茅舎　円
一ノ山湾傘を舞　角
雉竹のぶくれ蔓よ深ふ　蕉
拍場乃重ねの殿を高　角
一乃姫里の庄家ノ養いま　蕉
鼾名ふ乞を責ふ　角
ちくさ然の霊と啼つう　蕉
うゑ世よ沉む寒食の痩　角
皆い老貪重し笠ハさん俵　蕉
芭蕉あるし丸蝶丁ノ丸よ　角
腐しる俳諧犬もくいたや　蕉

鰰(ホッケ)くらて寒ぬ夜孫ぬ月　角
寄入の近づくまゝに初霜　円
たゝひつゝ菊うゝみ分　蕉
朝りを黄金ハ鑄(ル)崎(ニ)　小紫　角
凡そゝ夕へ切篭灯の記　下
酔ゝ物冷(サイ)茶ハ秋のむゝまて　角
こぬ夜の格子略を憐む　下
名月ハ前ハ閑よゝ清ゝ　角
金橙往よ粕うゝみを思ふ　下
葉生姜を世話ぬ山ゝ　円
榕桜かゝる茶碗の霜　角

寸ン法師切しの衣乃みかゝに　芭蕉
昔をカム　卒塔婆大小　下
仏乃名門を乃セゝ花の雪　角
凡そ三百人のゝる　円

酒債尋常往(ル)處(ニ)有
人生七十古来稀ナリ
詩あゝゝんゝ年を貪(ル)酒債哉　其角
冬湖日暮て駕(ス)馬(ニ)鯉　芭蕉
于(ヲ)鈍ゝ夷よ閑ゝ伝ゆるゝん　円
黒鯛くゝ様ゝ女ゝ乳　円

枯藻髮栄懼の角を巻かん　角

魔神を使ふす荒涼の碕　蕉

鐵の弓取猛さ世を出る　角

虎懐ろ姙るあり川さ　蕉

山寒く四睡の床冴え吹あし　角

うゐゐ火消て掎の灯　蕉

下司石釣舟舟を漕み月を牙　角

西瓜を綾る包ムあやまち　同

袁いに高城野九ぢ吹凋ん　蕉

みちちくの夷しぬ石臼　角

武士北禮の九森あらう欣　蕉

八声乃豹の雲刈　角

詩あらんど花鳥貪心酒債哉　同

春湖日暮く駕興吟　蕉

栗とりて一書其味世にかりて李杜の
詩酒に業て寒山の法粥を喫る
うれしき侍て其句みるに堂に
学ぶ書
俗と風雅のうれしきあるあるの
山家に考て人の拾ひ集鉢栗や
無乃情にうれしき昔を西施の
ふり神に敷黄金鑄ぶ燃上陽人
乃宮の中に衣物よ萬化かうとこ

下の品ふい胃こうり釈ろいの娘
聚姑のあけ所ろいをあり
かの寺の咒鄭舞のあ高北情をも
拾ひ毋氏う欲を彼乃手ひ
初心に秋ふうるあ人と沢
其話震動霊験をわうる寺寂北
鼎平句に煉ろ龍の泉よ文字
を治の星必他の考かにあ寺
めの寿ふ高拾乃盗人を待

天和三癸亥年仲夏日

芭蕉洞桃青數舞書

新山部

[illegible]山若温泉の愈ユ松風
[illegible]志を[illegible]
[illegible]野を出る[illegible]春よりも
[illegible]曙なりしひとり
[illegible]を[illegible]
[illegible]かくひすまこの
[illegible]の旅亭[illegible]
[illegible]なりぬ一たび温泉
に口すすぎて此山の閑寂をそへば

簑さゝへ霞(イナ)盆(ゴ)子[illegible]る山路[illegible]れ　文鱗

雪かとよ麦は穂ぐるまに紙幟　同

ぐるまの白に失せまじき世波哉

岩根こす鞦の鱗あり走鮎　其角

いちこ籠を水のむ猿よ僊ん　枳風

傍ら薬師堂あり朝々暮々に此像拭訪く

庵山耶かぬ笑ひもむ大系の十如院小

く雪かさくもる三日月つめるこゝろ　古人乃

梅の匂に祇長基佐の俳を物るこゝろ　世よ大原三吟と云

我等三人かあるる湯泉ぬ　ぬ

其一

ちらくとや早苗よりの乃る寺の門　其角

しのぶあるこの鳶尾の下タ脊　文鱗

宗長乃名を世岩月晴く　枳風

其二

涼しき庵さ本丹るの星光式　枳風

水札の羽を式めす山ふ　其角

柴人よ〳〵如宗祇何やん　文鱗

其三

菅蒲あり小るこの若蛍　文鱗

驛の蚊遣枝葉爽ル夢　枳風

桜井の枕を寄て旅寝しく　其角

身口意の三業法報應乃三如来まします帰
ぶつちかいと醫王堂前に奉掛干時貞享二年五月日

五月雨をあつめて涼しもがみ川　文鱗

さみだれや湯の樋ながす山の宿　其角

此山をいづくさくらの名残哉

なでしこ咲るいはほ哉

雨ふりみぬる灯の花乃曙　秋風

帰花つゝの島すゝきありれば　奇石

怪松んとかゝ

さゝ一枝あり

奥や滝雷を添き谷乃奏

宗祇なくさゝと咲る我が芭蕉翁の

千載集山路来てゆゝしき堂卅

山里は雪をわけつゝ来つれども人まちがほなりとてこそ

菴三ツ蛇迯を去ぬ古山乃邪　文鱗

蛇住ンて斧に為ぬる樗乃花　枳風

いつくゝふるさとを世をうゝみはしよりも奥

をたゝ水をちかきちかき山中乃客あり比叡

もてなす

多賀い海を見ぬる鯉の邪　其角

照射みる念仏の上を誘ひけり　枳風

月清集秋の雲を書とゝ麻紙さゝをゝ山猿の

対い情ふかくとも鎌倉若陽士未孫は山の東
て対まうけるよう式あるべきやうに
侍るに哀ありて其句ぞろいんといふ事
ちさ短冊をゆるさせうり

水かえ入陽の比あるべ人のもとより九献
れんをけるをもてあそひ事

ひるゝ水者うよけまを酒樽若
夜ちゝぬさてなりにける式

浴日をつんてならう所ふ宿ふ所ふく孫舎
にいるく根風い根日数なりとく芦の陽事
ありうを夜茂澤ふ泊りくあ夫江の孫事

詠侍る所思

墨染ふ浦の磐若磐憎まん　文鱗
黴雨の嵐尘頭一曲ゆえ孫へ　其角

行潮暁越を通り侍るとく海士よかえりく
除すぐ記尉事を麦寝所五月式　其角

新長谷寺に詣ゝ

志帆所帆　寺い嵐に涼ゝけり　文鱗
漁家ゝやすゝひ酒なと快ゝくかさゝ若磐
にまあちゝさちし者多式みるにも旅のあはれい
もうほさ形けるむゝ　暁の長明はのふこやと
いの所ふくなにゝゝ角ゝ孫あるあ夫す夜ゆゝと

よ奥しく俗人のかゝりけきは
ちとろ舞る芦北まゝする繁蔭ゝ　文鱗
蠅なくい一ち飛ん夏乃菓　其角
露ゝ器ち稀し五山ろこゝのすゝを分く
先達長寺にいゝゝ或日無詩俗ゝ人と
愛に話なし我ゝ俗影し夜木立　其角
名を始め名北涼ゝを乳く　文鱗
園覚ち千入開山佛光禄師をおするに所
かゝ常ゝ千蕉部ゝ八ゝく生る人千
むゝゝちゝ野鳥肩ゝ駙白竜袈裟ゝ現
すと伝へゝゝ五世のあゝさゝ成ゝゝ倚ゝ

ゝ白さ鵜ニのゝゝゝ架ゆ不ゝ白龍をゝゝゝへ
かゝ谷虚ゝゝく山ゝの川ゝゝゝ人無ゝに
ゝ物ゝく銭すと澤庵和尚若相山順礼ゝか
せゝゝひける弟勝ゝ杉ゝ
法乃色写ゝき蟲乃巌の那　其角
常盤木の落葉みゝや猪の路　文鱗
かゝゝに梵千大巓和尚の若牌をく礼し
香一焼ちゝゝ銭を色けり　其角
彼和尚のいゝゝかゝる業抑ゝ冥山ゝ
百六十ゝ世ゝゝ十ゝに業徳のゝ名あ免
ゝ下に擅ゝ一箇無ゝ若境ゝ遊ゝく詩ゝ盛晩

の長九紋磨一旦ッ俳諧よ自然の妙を伝え予
うの多を書く敷うち舞一えんたちのようの業
出つ紀侍事を耳よ物を伝る貧者孫子史
多病枯るにひとしきとき貞享二年四月三首
いうち七七四ツ柴屋の雪月中よ消かく主
おうの活名世よ勝を為へ蓬蘆一なる中
賜よ寓り志ろ小もも生義一蛍丸蓋麦湯ホを
志ろ一ニ愚集みれ一栗よ幻吁とう見ん活
侍句を志ろ人を涙いうう志くろや

三日月若命あやなり雪丸梅　其角

義流よ濱川自悦とのあり東別の比被和尚

にまみ及くかうえ先なうう法者ろ一ろ形を得
歩ろ中書ほ京よあり中てとう毎よ寒山の笑話
とばぬ和尚の逆化を告ろう書る民おろう
志ろのへとう社のむう北侍句をうかんしく
渡義よ女に黄泉の緑なるん　自悦
草枕月をうるほう霧令慧ろ新く今ほと
帰庵よ新よ尾場婆田よ見式体る官ある人
志よ告ろ四芭蕉る大巓和尚ニ法月の和
め月ろ原のくよほと梅の子ほひよ和て題
化一歩ろ原のうこ一ろ四ろ風ろ旅ろ四ろ
歩小ひうれ一さいうう志ろ新芭化侍ろ

[illegible]

梅[illegible]

四月五日　其角雅生

[illegible]文鱗士又若自[illegible]道の[illegible]草

[illegible]

撞[illegible]花よ蓼を[illegible]る　文鱗

[illegible]

[illegible]

東奥の[illegible]月[illegible]

[illegible]富嶽の奇秀をさ[illegible]

海岸孤絶黄金をつむへく[illegible]

[illegible]

一時[illegible]

絃化堂[illegible]

[illegible]や[illegible]　其角

文鱗

狂雷堂　晉其角述

虚無齊　鳥文鱗校

丁亥郎　川蚊足筆

附尾

昼都は駒千代の留をさらす　李下

なるほどすごる夏の湯炎　文鱗

舟続んで野渡の藻屑ちらん　其角

無月の暫時雲に岸の蓼　敦足

月や埋る彼岸の瓶の松　鱗

ウ

春の雨揚屋よりの出もせず　下

なるみとあるこれの名ちらへ　足

大将を士卒も同じ日若命　角

芦の江物ゝく埋む船衝　下

鱗

津国や和泉の間と浜続き　鱗

暗一法師に法矢和泉く　足

部食者を代の書我の新法師　鱗

月ほのかに分る名あり　下

月ほのかに秋を性の移あり　足

霜ふる時分宮司炬を縄　角

ふる橋絵の色食とられん　下

方延やうこと母の移しの手　鱗

二

舞一夜麦刈は寄宿りて　角

雨の林乃枇杷ぬくぬく　足

引ケやるる無ん和高北士車　鱗

世を尽る今の山崎乃京　下
鍛冶の鎚行朧ぬきし烏帽子きて　足
飛りゆける人に會釋せし年　角
忍ふ草木かげの涌泉にみだれしい　下
負られぬ櫂をひろのたりしを　鱗
兼ね吉銭乃の酒屋に安請す　角
三八の俤も身を語る月　足
男山表八句をのこしけり　鱗
斷うきらし九崎に杖つく　下
くれそめり後最屋番といひかれて　足
涼しあらそふや水のこゑ　角

觀音へ渡すに来る鵜乃舟かり　下
笑つる太麻の衣きれ舌なまし　鱗
こし瓢簞花のこずゑに身をあけて　角
宗祇　宗長　柵さらし丼　足

花つみ

元禄三年一月廿五日の夜の事なり毎月ちるよ詰まかりしよ
りこなたにつる事ありしも少しひをとらぬほどうつ多
うつきれども思ひ出る事中よせくんさく哉
手向侍りし事彼抵乃一とせ此月沙至
爲句法つゝ法つれる海山の情をあれ
あれ生きとし物讃の佛菩薩乃入心
乃みれ生ひ有一法ひくんいを求んと各々の
人の生く形生おく御手かぶつく一
夜百句よみちられも花摘と名つけ侍る是
その日生和の尼寺に句く結縁とし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花つみ

八日　上行寺　一灯礼　其角述

瀧佛や　墓へ登る　獨　玄

帰るとふ　ひとりの三歩　彫棠

身よりしたあふ卯花や　毎の寺

九日　角

[illegible]雨や　鑪山を　[illegible]　[illegible]

伽釣雲　かすりけり

四里　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　羽黒　露丸

十日

生け松いけに[illegible]まん汗　拭　角

十一日　[illegible]

郭公中入あり　芭蕉翁　同

三月十日の念仏

[illegible]

山吹[illegible]も和尚向武　清水寺　行舟

非情を[illegible]　僧　幽水

ゆくと来も二ツ[illegible]

十二日　東叡山院

傍山のまつ[illegible]ひとへや　桃　角

十三日

十四日　浅草川遊游

[illegible]　同

十五日　雨

紙合羽かるしやの世[illegible]　同

十六日　[illegible]　同

黒牡丹　[illegible]　同

十七日

牡丹　[illegible]　同

[illegible]　秋色

山橋寒を[illegible]

十八日　雨　彫棠

白露を石蕎麦[illegible]　價[illegible]　角

十九日　自愧　同

夜あるを[illegible]を毎[illegible]

自棄

下帯や[illegible]　土田　玄素

辞世

夢[illegible]　由良　正春

廿日

月よ[illegible]　角

廿一日　射者中矢者勝

愧おく何を[illegible]点　仏　同

[illegible]　尼智月　同

蕭[illegible]人や[illegible]寺の猫　女さの

幕や[illegible]

廿二日　佛骨表　角

[illegible]愧を[illegible]

廿三日　申の日[illegible]　同

[illegible]を入る[illegible]

[illegible]　久君　柴栗

拍子なる扇を乃ゝ〳〵波舟　楊水
繩さだくんと岩ゝうひめ　全峯

雨居　[illegible]

我ゝどもは何を吉の[illegible]　栞　卜宅
山焼く峯れ松乃ゝ墨ゝ[illegible]　奥口
ゝゝあゝれやく[illegible]　同
桃の[illegible]　野狐
[illegible]　知津

廿四日　宗長乃句を[illegible]
橋の一ツ二ツ[illegible]　角

[illegible]
牡丹芽[illegible]める句の事　蕉芝

廿五日　春紙
[illegible]　杜[illegible]　角
一[illegible]　卯月[illegible]　由水
[illegible]
[illegible]　庵丁の牛何とさく　琴風
[illegible]小鯉を[illegible]　主この邨　百里
[illegible]　夕[illegible]　同

廿六日　會盟

文月さめくく亦らくく夏葉理　角

廿七日

雉蕨や郭日待雪出納屋北廓　同

猿訴へゆく人々

猿のまつり尽くす田の秋　翁

廿八日　ある人の谷野墅にし

内川や嶋のうち玉菓子写蛙　角

皆家に帰く翁に脚の

おのれ羽黒山於去　山奥より北

奇偶を文猿二年七月

宵雛や雲をめつらす音　翁

俳諧くく人の歩き文神　露丸

川辺の郷に蛍を引き来

鶏の鳴あくく小夏の三日月　曽良

沈めて天をうかべ蛍の音　釣雪

小雨南をなめる楽　殊妙

眠てら畳の涼て寝ぬさて　梨水

百里の旅を来て北中迄　釣雪

山くくに小城の記を書く　翁

寄物をくく神来北森　露丸

寄くみの跡をくひりて赤面　青良

豆くくぬ蕎を何と啼の鬼　釣雪

古御所を寺に成て撞皮蕾　露丸　翁

梨水
曽良
翁
露丸
狩雪
翁
春丸
圓入
そら
露丸
翁

梨水
春丸
釣雪
田入
曽良
梨水
春丸
釣雪
翁
曽良
會覺

暮うちあつ[illegible]　舞　梨子

湯殿

[illegible]　月山　菊

[illegible]の峯いろ[illegible]　月の山　同

[illegible]

嘗の[illegible]　[illegible]　釣雪

廿九日

[illegible]風[illegible]　[illegible]　角

五月朔日　生二集

[illegible]

[illegible]　角

[illegible]

嘗し　稲むみ[illegible]　彫棠

雲[illegible]　勢の[illegible]　溪石

[illegible]

蛾[illegible]　雉の色　菊

[illegible]の[illegible]　[illegible]　雉の[illegible]　去来

雉の尾も[illegible]　秋色

蘭説　外[illegible]

洛下　落柿舎去来稿

蘭く暮ニ出テ朝カクル家ニ居テ人ヲ恐ルヽ

八足ノウラニ痲持ケラレ山椒ノ眼小豆ノ鼻歯ハ

糸ヲ付テ小袖ヲ縫ベク耳ハ木葉ノ芽ニ似タ
リ地黄ヲ喰ヘバ毛白ク大束ヲ喘バ口毒アリ尾切
テ錐ノ鞘ト為ハナシテン背腹ノ色ニ目出テ薄
モ濃クモ染出セリ被カブリタル姿ノ若ナルハ嫐
入ノ繪虚言ナラン筆ノ用ニ髭ヲ接ル、ハ老テノ
後ノ悔カ顔ノ烏魯ツキタルハ晝嵐ナレバ成ベシ
[illegible]

海年[illegible]何を[illegible]人の例より
[illegible]
[illegible]
苦[illegible]
[illegible]
ツク〳〵御身カ貴ヲ思ヘハ牛ハ形フトク虎ハ心
猛ケレド下坐ニ立リ百敷ノ賢キモ甲子ヲ迎ヘ
テ年ノ号ヲ改玉フ春立カヘル遊ニ子日ノ御賀
アリ子祭ト申スイツノ時ヨリハヤリケン漢ノ倭
ノ歌ニモ洩レス海糸や原始ノ海ニ住海嵐蛛
[illegible]
[illegible]
海年[illegible]我朝ノ人ハ野嵐トツ

夕ヱ侍ル麝香嵐ハシラヌヒノ筑紫ヨリ外ニユ
カズ天井嵐ハ雷ヲ鳴リトコノ乙若ヲ七郎トハ
申シ新左衛門ト名乗ハ月代剃テノ事ナルヘシ
大子等子ク等廿日嵐月ク十二ノ子ヲ産颯ク
ザノ扇骨バカリ誰カ家ニ取尽シ得ンモシ白嵐
赤テ福ノ神ノ使センモシレス
ツクツク法多ウ花ヲ男ハ喚ク紀伊ヲクノンテ
花ヲモ鞦ヲ持ク深ウウン考ル試ンク獲
小鳥みくれんとて中ヲ示ウモ歩キ歩いとあ
ふ法ク歩キ法ウや番木を餅吹矢小歯ともいさ
ちる共ハあしこのク吹嵐ぬまう嵐穢ものあるうる

或ハ絵を頸ふのけ幸ひしく嬉るさとふかくう
ともヌ母ウ人足稚ク西ち社先福ほを
をんも法ん生法を法ンづ法ふ小ヤさん作
ヤヤセ友生ヌうもあされて法ウくぐ
ぶべ〜ホ〜死〜て仕合と東法の袋無ル
と生捕ウて生ウ法ク張湯の文を軍我
さ人鳴ウ法狐狸の命ウンとて焼嵐と
新ウ法いと法ウ法ウ嬉ウ法ウ桁支障ふのウ
ク生業ウ法ウウも思ウん弁ウウウク考ウさ
ふれとウウめ等の美ウとウひふとひいウウ
ふちひ法ウウン

御身カ隠レ里何レノホトリソ武蔵ニ胤穴大
比叡ノ禿倉ナルカナドカ帰ラサル頼毫ガ勢モ
本意トゲカタシ猫ヲハムノ譬モ不善ナラハ成
得シ彼ラソロシキ睡士ト世ニ相住センハ面白カ
ラヌ浮世ゾ

面白を見るう栗ぬ嵐先

いつよりの神びく
つくつくぼうし法師もち
やつくつくもあり相撲おも
ありつくつくぼうし一支
百句ぬけもち
世集ちうき次伝ちうう

二日

うのとえもとをとて

三日

伝法くまつ
いよのもセ銭ち

梁の縄を這てうんむまはしく　同

四日

午の年午の月むまの
午の時うまの刻へ

競ち　婿ち午入所ちいさみぢ　同

有卦ち入笑ち雛ぐ酒ちぐ　百里

雨ちてくの
まくの日ち次

元日や　孫ち来ち梅ち　素見

小雛　雪ちく西月ちるうかいつう　返し角上

春風やちち迷ちる朝　枳風

[illegible]の[illegible]所[illegible]山さみ[illegible]　湖春
羽[illegible]毛[illegible]を[illegible]　盲人 滑稽
[illegible]織の[illegible]　晩雲
[illegible]　巴風
[illegible]　翁

東叡山[illegible]

大佛[illegible]　伝 路通
一[illegible]　去来
[illegible]　大体 尚白

心喪

[illegible]　幽也

草の戸を倉佛の[illegible]　三翁
雇人(ヤトヒド)[illegible]田植[illegible]　一笑
初瓜と妹[illegible]せん親　独　巴風
御調[illegible]　文鰊
[illegible]　芭蕉　加生
[illegible]の[illegible]　珍夕
蹠(ホホ)を[illegible]向ひ[illegible]　尚白
畑[illegible]　翁

尾御門主
[illegible]の笛を[illegible]秋の[illegible]　由之
[illegible]　風喬
[illegible]鬼(オラブツキ)[illegible]　佑荷

甲陽軍鑑を考

あらそむけ信濃の武士ハ去來
いちの宮中村いふ所にて
秋の風伊勢の墓に移すなり　翁
ひかりそえんあらしや霜の月　枳風
カリ移る秋の
菊のもと月見いとくれ酒せよ　同
めしハ進ず御膳ハ秋の月　尚白
雨後
年ふりけやあらしの月清ふ
山川
翁

雪ふる
水鳥のくぐるやいづこ深ふ流
物々さ寒ふ月ハ孤ふ庭の霜
いざ出ハ雪ふ所ふ
雪の朝やとりけ伐て薪買ふ
去來
沖ふ
雪のふる柳ふ
十ふりとふ
角ごろふ
雪ふ

大佛の瓦葺　同
揚水
全峯
翁
宗流
伝
涙
凡勝
桃園

師走さし一条殿さん　庭　砧　野径
何ぞ師走の布小槌かな　菊

右四十句誹番匠之墨糟也
仍駈入競馬之埒一畢

五日

義あやん幟をうゑ添あしし　角
攜佩くわざとめうしや芝看　嵐雪
年古さ人古此やゆ地歩　溪石
流る甲さん　鞦　ヨイ　齡の春　柴雪

六日　止波浦さく
地ゝさく　蜑　アマ　のさんしく　ゝの潮　角

七日　碎て石る　崖　溪石
實は蛇を抜をわるさん八幡　武　角
土のけく古葉を保る竹ゑし　巴山
打を切く古ゑ葉ぬるん蛇のゝ　同
蛇麦切て寝机や見ゑる蛇の穴　同

八日　得正　ニリ　観音像
年ゝ　ハチヤス　童　膠　ニカ　ゝ　白武　角

杜若　見ゑと多河ゝる　崖
庭ゑ年横ゑゝ海のゝゝ　百里
ゑゝ雨ゝ降糸ゑゝ帝　幟　是吉
年ゝ入ゝ淀ゑを見ゝ玄蒜舟　山川

[illegible]　重則

枝柿や　紙　姫ゆるし　初いちご　同

九日　雨

[illegible]　五月雨　角

[illegible]　鶴　鶴　沾荷

蘭[illegible]　同

好物

入歯してみやもそしや　瓜畑　三翁

贈芦屋

[illegible]　蚕干もせし　草物　[illegible]

山菅(スゲ)　ゆひめ　[illegible]や　[illegible]　同

[illegible]る　木[illegible]　山かいゆ　桐の葉　同

[illegible]　西瓜　少年　亀翁

雑[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]　女[illegible]　同

[illegible]　童[illegible]　里[illegible]　同

十日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　非人　[illegible]　麻(アサ)　蓬(ヨモギ)

角

[illegible]

[illegible]

山川

崔雨

横儿

春魚

松翁

同

十一日　絶景

平月雨や富士の嶺に[illegible]

[illegible]　角

[illegible]　沾荷

あの蟬やそもあけくれ[illegible]

[illegible]　故郷　柵雪

回帰の法[illegible]

[illegible]

[illegible]　拾遺　林に日は光

玉原寺

[illegible]　我庵　色も水かな

大五輪寺

墨染に[illegible]　菜摘

多武峯

[illegible]

芽むしうり　池田八郎兵衛

十二日

きみぶくろ　角

十三日　岩菊亭顕送蝋

みじうあや　蝋　同

清屋指く　岩泉

唐草　同

形ちも　同

月見草　遠水

十四日

枇杷の葉やとれた角ふき　蝸牛　角

形ちうすけ形ち　枇杷　岩翁

安清く　扇　同

言種と小菊の角　初茄子　妓童　松嵐

十五日

新粉買ひ　鶴ん　茶銭　角

新の蕎　二十　くだつん　俗　二ケ

仁勢ちく

門　ちくしう　同

十六日　ちくしう　同

袁いく　鶴　仮　打麦　玉兎　角

十四ち　茶屋う　銭

[illegible]ん我思ひ

[illegible]

十七日　いつこの社国例なりてうせ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十八日　[illegible]　角

[illegible]

十九日　[illegible]　同

[illegible]

[illegible]

廿日　[illegible]　同

[illegible]

廿一日　市の[illegible]

[illegible]　沾荷

[illegible]　百里

[illegible]　氷花

[illegible]　梨水

廿二日　夜讀書

数をかや拔て流れ幸乃重（カサ） 角

廿三日　霧法のさみ能無り

日ふやけく濃吾きるぞ清水鬼 同

廿四日　旅立人をあらんく

舞坂や鬼の涙月ぬらる 同

廿五日　茂叔讃

傘も捨蓮乃立樂手 越式 同

廿六日　山田昌悦

汗濃さよ衣ぬ背ぬひのゆゞみあり 同

夜舟無

笛吉ぶし橋くら野く菜の白し 巴山

父の寐くらしよ秋

夏衣いつらあらん老乃腹 同

廿七日　入湯乃人未聖をうを見て

蟬乃聲半らもあつを捕ふ 角

本宮川の材ふ清流きりふる 山川

廿八日　井手乃みあしの

浦のめらちもひも

しりぬつやしろう

顔あけく清ものと流を製ぬ長（ナガ） 角

廿九日　毎興

更るぞ四なのいなぬ辺りふ 同

一夏半尽

多ふ摘て片枝葉のあるを極弐　山川

花つみ上終

花つみ下

六月朝日

白雪千里さえ渡る宿がらや家々冷る氷餅　角

遊濟海寺　溪石

あるものの暗といふ舟出人の汗　沾德

二日　所見

花ゝ家ゝ星ゝ川ゝ色乃涼哉　角

棄(バイ)舟つく踏ゝ流れ蛍哉　巳百(ぢ)

市ゝ立て多ふ捨ゝ多ゝ物ゝ多ゝ　曲水

藻(ウキクサ)や魂ゝ川ゝ　柴雪

夏ひとへ　みゝハ帳ん　ゆめさめ　万四

三日　巴風亭

水うてや　蟬も雀を　ぬるゝ　角

ぬるゝや　蚊の声ゆるる　仲の隈　巴風

三ヶ月も　涼しさ　添端　溪石

うらぶれと　庶子　ぬるゝや　三ヶ　巳百

白川　白川　ぬるゝ　ゆく　同

四日　越女小ひとり　涼しさ　角

涼しゝと　海　入日　金鳳

髪ゆすぐ　草　ゆる　涼　鉄蕉

白雨は　玉　狗　笑　横　同

西行を　目も　二ヶ　雪　幽也

五日　祇々日次の　雪

河養　姫　流　角

夏山や　滝　二　曲水

ゆすぐ　ゆく　暮　同

石山

男　一　春の山　遠山　少よ

六日　祇園　春

松の梁　青　月　角

七日

京加茂川らしく
紙衾ならひて

鉢たゝく人のきぬにもみぢかな　同

冬暑し茶虫殻くさし縫桃　卜宅

鴫もかゝりゆきさる宿の暑サ哉　業雫

八日

母の日や文浴出来る風　角

花つゝの中く

卯の母子逆流あかつ蝉の声　僧巳百

憶子

梨の葉とちるも巳が実のあそ　梨水

二月や海に柿の木さその海　越人

九日

翁より此みよ都の涼しさて文
どもうみなりなを挿りそて
形どし出へき涼をとゝめく

武山の涼しきあらし涼さなる　角

日の係守華よのる庭それ　二ノ面　巳山

森ともの花を結ぶ鴫君より木平梁　同

蓋もあらずとも何る家の暑サ哉　氷花

夕涼を似合ぬ僧もありけり　竹井

毛とも笑あふてる姫し池の鷺　とし

曲水の旅宿に訪ひて
湖水をあかひ刺しれ

十日

漣やあふき表をとるゝ柳かな

ちど草菴をくゝりゆかし　角

あるまじき細代は氷魚を煮て出さん　翁

法華本門の心法

雨乞ハ多くは漏出る惠ぞ　車蹄下　非人

麻ちりさとしの句法法華
十法こえ　我母の遠長
やく時白をつ　ちりちりく菊中
家見ち　ちと法華く　非人い
また花の去と宮　宮しと
記録ろく

十一日　水の粉ろ風の姫形る扇う事　角

十二日　夕雲師　まだし紀　法雲　誓ろ紀　同

十三日　拜天王之御旅所

里ろ子ち宿宮ろ子いさ　鼓　弐　角

十四日

蒲の穂中　蝌を　雇ろ打もん　同

引ぬ子　鈍ろ　毋ん　暑ん　ろ　百里

撥ろ　ち　ろ　ち　影の　帶　妙延ろ　可

十五日

姙入せ　時ん　ま　ろ　ろ　ち　用　丁　角

十六日　怖夢をろ　て

切ラレ　ま　ち　ろ　ち　蛍ろ　ろ　同

衣食住ろ二ッハ何ぞこうかろんじ

酸　[illegible]る歯も[illegible]あるべき老の涙の郎　山川

苦　[illegible]の味も藤の臺

甘　井乃庭の蛇を[illegible]し蔓いちご

辛　百草も蓼も実ばかりも　著

鹹　[illegible]揉まるる[illegible]の姫

十七日

[illegible]　嫁寡　角

蠹乃巣や干[illegible]ぬる妹うあ　達曙

十八日

[illegible]　[illegible]　角

次の[illegible]結句不拍子の躍り哉　笑種

京ふいふう

大蓼も柳原[illegible]　舟竹

蝿[illegible]の[illegible]秋の眠う　巳百

伊勢の[illegible]

仁[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]猫の昼寝も暑さ哉　寒蝉

元禄元年十月の事なり

十九日

月出て[illegible]涼しき事　角

紙乃切手蛍つゝん　島郡山　筍深

何なて[illegible]すみ舟　枳風

廿日

夕皇子白き船　塩浪　角

[illegible]つゝ　銭[illegible]

刺立て清[illegible]

難波江[illegible]　曲水

廿一日　市中乃[illegible]　角出て淀の芦　路通

[illegible]　夏神楽　角

佛[illegible]　[illegible]　秋色

廿二日　焼藻を背て　田刈　角

廿三日　煙雨村

夕ちや洗ひ[illegible]　土の色　同

ゆつちや炊く煙をつまて　百里

魚の腹白雨ちゝし　町屋川　遠水

廿四日

廿五日

廿六日　[illegible]

[illegible]園の[illegible]　角

不奪二百姓膏腴文選[illegible]

百姓[illegible]　酒や　一こ夜酒　同

木戸番を[illegible]

蝉鳴[illegible]一日帰[illegible]露　同

蚊乃声を悪しと[illegible]　由之

炭[illegible]　童次

つ[illegible]　桟水

常袴[illegible]の亭　仙化

廿七日　豊年

[illegible]味[illegible]　瓜茄子　角

白雨乃[illegible]　黄[illegible]　友五

廿八日　雨中乃

夕立乃　獨活の[illegible]　角

廿九日　[illegible]

[illegible]松[illegible]　[illegible]出[illegible]　同

晦日

夏稜御師乃[illegible]　同

[illegible]　[illegible]　笑樋

木の下[illegible]　夏の月　莫陵

七夕ぞまてぬれぬかりぞ衣　松風

心非心是

よしあしは云はで答よ紀若葉に　定良

この絵松風亭にて

無人を其露すとも涼哉　鋤立

為喜も暮に淋しや蔵の葉　防風

七月朔日

父の郷もしきは絶んとも聞く
まかりの日の郷中はなみうて
きの舎よりひまへくばりくけ句を
中よ立ちの八一折とし持てんば
うしいつまで出おらせりの感の舎
千とせ一折を為し候る

秋といふ風ハ身にしむゆふべかな　角

澄てよく流内井戸の月　定良

燕の巣を去日とも稲刈て　幽也

桐揆ありひとへ團織　松風

或いつきのよきちまはなる流ち　渓石

右左ある残りの色流　角

二日

草毎に手毎つまれ
絶えぬ絶えぬ問く

多摂乃筐より多く一葉かな　角

蝶来ても色あるふや桶の百合　亀翁

寐ての色とも抛分けむ抛らず　遠水

そのかざり夕日を挑む涼しさや　且水

兀山と[illegible]岩つゞし　全峰
卯花垣根[illegible]　白雪[illegible]

三日　市隅

西側の町[illegible]　角

離婁之明

[illegible]の毛[illegible]　筍深

不斬畜乎樊中

庭篭[illegible]　追出[illegible]

読太智度論

深[illegible]白蓮花　同

一念

仲の雲[illegible]千[illegible]月　筍深

四日

五日

六日　[illegible]　胸の中　角

七日　[illegible]

七夕や雲霧[illegible]入[illegible]　同

時雨[illegible]草や星[illegible]　素見

[illegible]の[illegible]夫婦[illegible]天の川　仙化

蝙蝠[illegible]風[illegible]　曲水

星[illegible]ひや[illegible]ハ一ツ[illegible]　葱畑　里東

ゆふつゝ星合の涙よかけてく青女
星合や人さうしゝ数夜叉ツ　溪石

年年と平ら寵ちらしよ
生流身の稼ぐらしよ
年や何とこあれハ言下

何くを七夜あらん　星まつり　是吉

八日

三遷の初雪よ慣ひく
七ふあらしの風姪さよ
のゆせられし一身あり
七夕一寄まりく
いとをしくを

文月や産ゆく文字と　母の恩　角

題張氏隠居

童形表氣流しの流表の倦　お年　絶瓜

夕顔や半開　八ツ乃鐘　瓠瓜
姉ト娘鏡や女の上ハ　拍矢　訓女

石山幻住菴ハ芭蕉翁ゆかり
徜徉ス所也ゆえに
鉦をまつりをとゝ

いつゝまゝて露の葉蜜ゝ　浄瑠璃　里東

幻住菴山上

木啄の柱をつゝく　住居ゝ　曲水

山下ゝ

牡丹ゝ小松よ海ゝる　けし　同
蟬乃ちゝり解の面や　ザンザ滝　全峯
鶴とハ小ル指鉦も　眠る夜明式　氷花

蓮の葉に扇子あり暑さ忘　石鼓

自畫讃

いざ書く墨サ忘れ　亀足

筆ホ忘れ清水手酌　千破

九日

生霊（イキマ）　酒の肴ぐも　祖父（ヂ）の郷　角

人の子はいとく新し　秋の昏　水石山口　半夢

六日　海亀　陵雲　又　角

稲妻や朝　曙（アケ）　志

十一日　花ハ咲きみよの葉ハ揚水

葉ハ多くて多くて　揚水

いと涼しかる　童次

十二日

美女　美男　灯　蛇　遠水　角

負ぬる我　咄　相撲　遠水

十三日　南部の其河　夢の内の玉川　西行上人の堺井あり　角

濁る井を　ふるうて　秋の雨　角

熊蜂　来る　の　霧　吸　清　車　柵雪

蔵　葉　ちく　雑　ち　ち　業　同

親　ち　ち　清　ち　古　海　や　蓮　賣　角

星　合　乃　久　へ　淋　し　合　比　丘　尼　所　揚水

彩　良　や　命　と　ち　陸　く　陸　五　渉　童次

出羽の国山寺にて

山寺や人這うて岩に蒼苔　仙化

十四日　分郎原

みちの苏や分郎原の躑躅　角

草村や蜂の風　琴風

秋風や肉さへ痩の骨ばかり　溪石

小蕨や虫の穴の穴　角

玉川を我蛍宮と名付　童次

玉まつりかくもそそ鳴る帝堂　琴風

門前や新拙ハ盃の中　溪石

秋風や係ひ合ふ玉まつり　裴淵

十五日　こんさくちりさくさくらの紙を恨る　角

葛の葉の赤い赤い紙を恨る

荀子其辭富而麗

白雲や秋の鮭の骨ばかり　揚水

孟子之文直而顯

白雲やちりぬる山をみる　同

揚子之語簡而奥

ほかほかと軒の屋根の霜　同

十六日　陀羅尼品

銀を罪の秤や暮の秋　角

於三年の四悲

[illegible]時ハ[illegible]おさ[illegible]　墓乃あり　仙化

亡親之日
孝養施餓鬼　百里

地獄　[illegible]鉢や火振[illegible]水の色
餓鬼　[illegible]の門や[illegible]打鉢
畜生　馬士も倒も外[illegible]
修羅　辻[illegible]西瓜[illegible]
人道　[illegible]身を[illegible]べや　生身魂
天道　稲妻乃[illegible]
声聞　秋風や捐[illegible]蟬[illegible]空
縁覚　蓮乃実や[illegible]

菩薩　羅ふい　毋乃かぐれる[illegible]
佛

十七日　[illegible]男の推つ[illegible]
西瓜ふ　奴乃髪れ　流[illegible]　角
輪[illegible]　[illegible]の世　探泉
筆木餅を文字又かゝる　灯[illegible]　東[illegible]
昼寝して[illegible]　同

十八日
[illegible]庭の萩　角
[illegible]　里東

すまひとるとかくかくの童うの事　小侍　文松
牢人の肩ぬぎうちきり　秋の蕾　吾　そめ
老僧をまねで掃くや辻せごの声　戦竹
いろとをとかくぬいは我と猿ぢうり　東吹
夏は見や酒のしるを時雨味　亀蘭
ちまの御安くるりしや　たれつく　半夜
寺くれ掃除をひろう　御代　同
雑魚めをて堂立ちの　鉄の変　野径
菱鬼の紗箱まるる崔うを　同
紗うるとを名乗を駒ぬ扶ぬ　岩翁
番組　蕭山

三番三　片とうとの順ゆるる人　華乃酒
高砂　松乃葉やもちぐで月出度つの雪
頼政　いとくくく未摘まるる　葉赤
東北　東色は毎色と経ちむ時ちぬ
和葉狩　切ぬく太刀と決張る人岩の和
三輪　泊瀬女を来ぬいとる　駒ぬ
三井寺　ちるる狂ぬ　花自
老松　雲梅や夫婦　通て色ちる沖の越

十九日満百
ちる雨芳月永成ちり　毎乃新　角

我を又あはれ法中に秋の蟬　荀深
蟬乃声乃法虫乃四辺千載式　東作

追加　四日五日のたそかれ
七月廿一日コ秋三回忌に当る
智海作をとくとく墓誌
浅草雲龍寺念仏一会

三人乃参乃年暮を秋乃聲　角
同じく

三と参とや灯蕊一つを取うろう　杉風

市中閑居

葦やうら葦人を折格子　角

閑興六哥仙

ゆくゝ水や何よりは海苔の味　其角
叡乃茅立乃堀江　柳橋　溪石
人を忘しをのうらうを忘れ　琴風
撿狩成ハ詩しろ外良　角
さすが月を輝く四周乃青毫　石
蝕を
すろる　扇　清　泉
数珠や獨法念し居ろよ秋の雨　角
数如　秋の法色半　結　不
かくし歌ちもふ方ふも　讀まさん　泉
借紗ちハ　酒　角

まで世ゝに竜田の神宮のたぐひ海
ゝの枝ゝ木ゝに北野柿 池
孤墓表に物ゝ自然の角
鈴写乃琴琵琶の折うゝ秋 石
如ゝ此ゝ書ゝ物ゝ世の感ゝ雪の中 池
其血ゝ書ゝ一筋先芝 角
乳ゝ茶ゝ金拾ひゝ乳花の法 石
二日の夜ゝ兼しし 雛町 池
十 琴琵琶乃田舎 抄撲を ゝ 角
士 窓 流る 橋破ふの数 石
帝墓への道ゝ ゝ ゝ 池

妹ゝ沖むあひや 角
垢離場ゝ 石
流ゝ 池
乳ゝ乳ゝ乳ゝ 角
磯の月 石
磯の渦 池
上 角
ゝ内ゝ 石
ゝ川ゝ 池
老功をあ 角
霜乃ゝ ゝ 尻窕 石

冬は偶の所の毛　ちぐさを　遊をうつす　風
すり針や　色紙の　浦を　見ぬて　角
着やあるを　い　本曽の　麻衣　石
四月　石山行　住菴を　風
うらやむく
郭公　背中　尽くや　蕭々
鞭　寺さ　山を　つ　出る　夏草　曲水
招人の　さくらふ　馬峯　けて　花　其角
急ふか　味を　ふ　る　同
水

自らしと　隔をとらし　お偶を　同
年を　世　惜　大掌會　し　角
暮まる　田　屋　入て　水
子の白　ら　毋の　鍋　角
鑓　乃　外　ふ　表　水
七ツ　揺　も　菩　拠所の　角
ちり　米　二ツの　ける　其　水
玄の都　田　金　ち　聚　角
所汁　つ　ち　ゆ　機　水
舅の役　ゆる　ち　翹　角
玄　下る　番　代　丙

いろ形にて用ひ　いとく　熨　角
まれ人小酒買ふ　ふりを　かしこる　水
さてよい月やう　ほめく　居る　地　角
書き抜る　藍　ふるる　嘆　ひ　同
茶を　たてぶ　御康中乃　秋　水
此意を　見る　合羽を　結ひ　角
こる　部の　もえ　氣の　毒　水
居士　小衣ハ　深く　袖　色　角
六浦の　色　曝乃　抜　水
くゑやくあ　ほよう　格を　ひ上ゲ　角
ゑ日乃　祭　具足　水

何者乃　ひを　ほし　紙の　屎　角
の　ふ　く　富士の　白雪　水
月　彩　色　皐の　先　成めん　角
弦乃　あ　ま　ゑ　龍　膽　水
振　袖乃　羽織　抜る　寿の　上　水
ゑ　る　ゑ　を　罪の　外　角
茶　ま　道の　ゑ　ハ　憂　色　同
お　巾　ま　ゑ　小　判　乗　水
ゑ　別　ゑ　ゑ　花　ハ　笠　同
麁　を　ゑ　ゑ　蝶の　こ　ん　角

翁千代して幸阿へ
まゐりける千那寄ぬ
伴ひける印與

草もえのもわかに陵ちれ　柿茜ぬ　弥夕

昼寐の障子撚れる絲の日数を
はかるし別後を問ていまさぬ
しるも結香一掬しおくろへ見ら記
翁のいつまから銘ま誦る業とふ
あたらもうりいふ次ぐまうりそれの
のうかぞ多ゝ記

筆をさし流るやかつき下涼　其角
蝶ふまり流る声ゆ北をしを　蕭山
いぬく酔浮ど巳歎ゞ身まゝて　彫棠

亭ぬる亭方所罷を着て外　角
引来八艘治ゝきぬきふいぶかりを　山
まさ裁ぬのゝ損壺を流る　同
盗人と音名よも稼ん里のる　棠
咲うる甲裳とあらぬ法法　同
傘やなまあらふ稲ま村時雨　角
紋見知らる　君か提灯　同
ゑもしふ姿を流り思ひ出し　山
早歌とまま出つ縁さきなき　同
死さぬそ人ぬけらしさ泪まく　棠
くゆく　さゝすり尼の針箱　同

袖ゐ来く　海浦せく　雀のる　角
霜多ふく　瓶ゐさす　苔　日
玉巣ゐ　身ハ下る　雲乃月　山
乃風ゐ　小弓まいく　日
ナ　二人して　かくみ　ゆくゆく　蛍ゐづく　棠
梶ゐ　ゐ乃　皆き　海　毎　日
金箔ゐ　包まれ　形の　東　角
赤ゐ乃　塔ゐ　成就して　形　日
西ゐの　石ゐ　墨ゐの　三十　餅　日
春雨ゐ　嫁ゐ　赤ゐの　古　郷　山
横川　て　毎の　赤ゐ　葉の　物　日
棠

物　窟ゐ　赤く　弥しく　窟ん　日
原　月　西　洗　蒼　形　ゐ　角
ゆく　ゐ　ゐ　ゐ　桂　早　梅　日
山里の　春ゐ　乃　ゐ　東　北　礼　山
初て　節　波　ゆく　海　日
春　梅ゐ　つく　形　ゐ　や　春の　雲　棠
雲　ゐ　雨ん　仲　ゐん　春　同
は　響乃　口　すく　形　ゐ　渡り　形　角
氷　ゐ　ゐ　母　頬　乃　ゐ　山
今　切ゐ　ゐ　ゐ　道　ゐ　切　蒼　角
窟　物　ゐ　ゐ　や　白き　食　茶　棠

呈餞

安房の海辛崎 汗拭 彫蒙

そ宮

あしたは海たく男人 西の海 肅山

疊岳ふもとの松 [illegible] 蒙

六月十一日

[illegible] 車僧 卜宅

[illegible] 乃鄙ひ 寺角

[illegible] 紫雲

[illegible] 年 [illegible] 宅

茅蔦 牛尺くし密往引きしを 角

何ゝうゝえしし 雪出羽 寺

壹宮ゝ宮ゝ宮つさよるひとよさう 宅

形十分年 ひゝん 盞 角

貧ゆゝよ 祐乗 猫ハさけぶん 寺

雲能とうふ [illegible] 寺人 宅

夜の雨 燒食二ツあざゝせて 角

法ゝ [illegible] 寺

下細乃結ひ目 [illegible] 宅

小夜 寿さ あ [illegible] の [illegible] 角

[illegible] 雲

為月日よりて酒むと人　宅
かくや姫と人せと家をつくる　角
桃うゑおやしく　きぶ形をつくる堂　京
蜂ナ乃巣いとゝ　ゝさゝの工ミ也　宅
一ツ時責セメ乃　歩馬出ける　角
解新を　ぬぎ　かる紙　京
ぬるで　かさ　ゝ　漆ヌリ　宅
立川ふもべる　ゝ形る　角の新
稲書よりも　きいと　刺カリ　京
四ツ五ツ　ゝ　ゝ　宅
人手買せて　ゝ　紙　宅
　　紙　蝶　角

を外ゝ　ゝ　ゝ　古　那　京
掘ゝ　ゝ　ゝ　扇　宅
硯の料　ゝ　紀門　ゝ　角
人ゝ　犬乃　吼　ゝ　犬　京
虻を　ゝ　ゝ　煩の皮　宅
ゝき　所　ゝ　机　角
ゝ　ゝ　ゝ　盗　碑
遠巣　嶌巣　ゝ　小鉢　宅
甲斐　ゝ　ゝ　春の月　角
　　紙　一ツ　ゝ　碑

七月十日　橋上竹

[illegible]　且水
[illegible]　浮萍
[illegible]　亀翁

七月十九日半時

[illegible]　其角
秋を涼し　畳　炎　遠水
湯次ぎて　[illegible]　岩翁
下[illegible]　[illegible]　角
[illegible]　[illegible]　水
市を[illegible]　[illegible]　翁

我方年古き仏紙[illegible]　角
家子　仏　[illegible]　水
[illegible]　翁
盲　[illegible]　角
[illegible]　水
水施餓鬼　[illegible]　翁
鯉切る小[illegible]　角
[illegible]　水
[illegible]　翁
[illegible]　角
王城[illegible]　水

稲荷の　菊もあり　菊　角
うなひより　乳母の　懸む　稗　水
風　水　水　沙　水
暖　簾　垂　老　上　高　菊　掃　菊
きり　め　茶　張　の　む　抑　し　茶　角
日　く　ら　せ　ル　示　う　海　す　る　簾　の　酒　水
身　よ　兼　物　乃　本　し　乃　名　を　俗　菊
呼　度　を　書　清　本　て　れ　浦　侍　し　角
朝　を　鶏　も　沙　ら　る　瀬　戸　水
粉　を　の　焼　い　禁　本　る　乳　材　乃　絡　菊
一　藝　好　る　る　く　人　を　感　蕉　角

を　の　つ　く　蒸　の　森　入　出　る　雪　の　色　水
麦　ち　人　稗　き　人　を　く　出　安　キ　世　菊
あ　ち　く　屋　の　狸　の　完　成　あ　ら　せ　て　角
砂　ど　変　セ　十　乃　名　れ　子
雨　氣　つ　く　日　ま　人　園　炭　も　う　海　し　水
物　う　ゆ　ち　と　寺　れ　門　あ　菊
茶　の　時　沼　あ　よ　井　戸　を　板　の　下　角
尺　く　め　く　蠶　く　や　う　ま　れ　虫　菊
偶　與　水

秋　風　や　家　と　板　戸　れ　雨　り　者　岩翁
這　天　す　經　ち　東　み　を　多　仏　く　亀翁

華をぬすむ戸もあけき霞かれ　運水
唐紙乃表装かゝいてゆく
亦一つ道状茶まぜれ秋寒や　仙化
月をあまより簾の茶る萌　其角
志とゝせよ近き梨を手近にて　百里
武士に米を添ふ鰭の蛸まひ　沾
拝まく算の茶とかき添なり　角
いろは鍔　冬干ほり市　里
むまりしと祇に斎をとくしひる　化
手しかむ墨を押しむ史　角
ちつけにくづく男を恥しぬく　里

青屋が水みさ流す藍染む　化
いつとけ〳〵井の輪は氷柱つらし　角
鴬志はし足駄ふんぬく　里
十分の栄を見せん花は紅　化
焼筆あてゝ鷹む山し　角
釘かくし建立しに添今ゆり　里
飯の寺まかり眠らき形る　化
議するゝ亜に揚登は月をみて　角
飢くを　きまゝ添　秋風　里
新しい鯉なりし　つうれ紅葉　化
為八潮わりわれる鶏形　角

村肝乃喧嘩の時のもみあひて　里
はいろもれしくと泣　化
あしこ割さ茶碗をつくろふ　角
所すソ形る　衣のあつらひ　里
法くり出散おとふる紙　色者　化
夜は八幡本　繁こがしうも　角
月雪こし丸太は切を枕まく　里
針立智ふ　末のひと重　化
所かなまり疊は名字を継つけ　角
年輩よくみ　奉行かつむる　里
地祭の竹の幕も　常あるん　化

鞠をもうして番太か宅　角
十坊はさし麻行き錦の房　里
声たん桂を　籠乃本　化
楽せんと拝ひし旅の茶番て　角
智ふ本こ紀宅　山をさへ於りし　里

花つみ下巻終

花摘集

山田筍深跋

孝者德之基也儒家有孝經佛氏有恩重矣母子之有親也懷老牛舐犢之愛沈斷猿叫子之恩猶羔有跪乳烏有反哺況亦於人乎于茲武陵晋其角元祿萬年之三四月佛生日遇母公之諱日偶詣石廟嘆戚頻起泣血横斜捻香摘英挑一灯咏一唫以供聖壽之追福積日涉月向莫換百葉也今幸慣摩耶報恩之結緣集一夏百吟名曰花摘也記其傍者皆是助餘哀者也嗚呼角子寄思風月游心滑稽花中轉鸝唇楓林敲鹿腸遠追祇公之薫業近汲芭翁之支流矣闔國許之成世之棟梁噫夫叔子有墮淚之碑其角有花摘之集和漢雖易地其機亦一也予閲其集感其情而採毫於東武之旅寓

元祿庚午歳上秋下旬